

授業アンケートから



# 学生の選んだ Tokai Univ. Teaching Award Prize Winners List 2014 『いい授業』



URL  教育支援センターのホームページ  
<http://www.esc.u-tokai.ac.jp/>



東海大学教育支援センター  検索

 東海大学教育支援センター  
発行 ● 東海大学教育支援センター 編集 ● 教育支援センター教育支援課 発行日 ● 2014年5月31日  
TEL ● 0463-58-1211 (内線2087) E-mail : shien@tsc.u-tokai.ac.jp

 TOKAI UNIVERSITY  
EDUCATIONAL SUPPORT CENTER

# 『いい授業』を一緒に創ろう!



東海大学学長 高野 二郎

今、日本社会は、少子高齢化やグローバル社会への急激な転換が進む中、大学には、これからの社会を担うことのできる人材の育成や新たな知識基盤の形成といった「知の拠点」となることが期待されています。

東海大学では、こうした社会の期待に応えるべく、全学共通の具体的な教育目標として、「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の4つの力の育成を目指しています。

昨年度、「授業についてのアンケート」も大幅に改訂し、説明がわかりやすだけでなく、学生の現状をより良く理解し、学生の皆さんに成長実感を持ってもらうための工夫に役立てられるようにしています。

学生の皆さんが答える「授業についてのアンケート」が、大学の授業や教育プログラムを変えるための原動力にもなっていくことになります。

学生と教員が相互に力を合わせ、これからも『いい授業』を一緒に創っていきましょう!

## ●東海大学が育成する力

—自ら考え、集い、挑み、成し遂げる力



- **自ら考える力**…常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探索する力
- **集い力**…多様な人々の力を結集する力
- **挑み力**…困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力
- **成し遂げ力**…失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力

授業アンケートから

# 学生の選んだ『いい授業』

## Teaching Award 2014 優秀賞受賞者 (2013年度選出)

経営学部経営学科 ■ 田中靖久先生

工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻 ■ 新井直樹先生

健康科学部社会福祉学科 ■ 阿部正昭先生

外国語教育センター第一類 ■ 中川 浩先生

課程資格教育センター教育学研究室 ■ 鈴木正行先生

あなたの**授業アンケート**が**いい授業**を作る!

### ●東海大学Teaching Awardの選考方法

東海大学では「授業力向上」のために、1993年度から学生による授業アンケートを行っています。『いい授業』を行っている先生方を表彰する制度『東海大学Teaching Award』は、1年間に開講された講義科目の授業を対象として、授業についてのアンケートの「総合評価平均評価点」、「科目履修人数」、「アンケート実施率等」を考慮した候補者リストの中から、学部等より候補者を推薦していただき、さらに学長室が中心となって厳正なる審査を行った結果、2013年度は5名の受賞者が決定いたしました。

### ●記載内容の注意とお願い!

- ① 授業科目名は2014年度春学期・秋学期に開講される「主な3科目」です。
- ② 授業内容はキャンパスライフエンジンから「シラバス検索」で確認できます。
- ③ 教職員が授業を見学する場合は「授業時間割表」で教室を確認し、授業開始前に担当教員に申し出て見学してください。
- ④ 所属は2014年4月現在です。



経営学部経営学科  
田中靖久先生  
Tanaka, Yasuhisa

yanakaka@ktmail.tokai-u.jp

## ●学生と教職員がよい授業を創る



「規律」「情熱」「ユーモア」の3点を心がけて授業に臨んでいます。

1.時間を厳守することや私語のない聞きやすい環境づくり。2.授業研究に力を抜かない。伝えたいメッセージを持って授業に臨む。3.単にジョークを言うことではなく、物事を多角的に捉え「難しいこと」も見方をかえ「おもしろく」「楽しいこと」に見せる工夫をする。

学生に「授業は、コンサートのようであり、演者(教員・学生)と観客(学生・教員)、そしてスタッフ(職員)の協力がその善し悪しを決定する。だからみんなで協力していい授業にしよう!」と伝えます。



### ● 分かり易い! 授業のテクニック

●はじめに今日の授業のPOINTを示し、前回の授業との関係と本日の流れを説明します。授業の最後(まとめ)に、これだけは理解・記憶してほしい内容をもう一度伝えます。

### ● 関心が持てる! 授業のテクニック

●1.前回の復習をする時間、2.視聴覚教材(映像)・資料等を見る時間、3.私の話を聞く時間、4.それをもとに考え、文章にまとめる時間というように授業を4分割にして、集中力・関心が続くように工夫をしています。

### ● 聞き取り易い! 授業のテクニック

●大きく明瞭に話すだけでなく、時には小さな声で聞きづらく早口で説明し注目させてから、もう一度ゆっくり丁寧に説明します。Hear(聞こえる)ではなくListen(耳を傾ける)になるように心がけています。

### 授業を良くするために活用していることは?

#### ミニッツペーパーほか

ミニッツペーパーを必ず活用します。よく考えていながら発言できない学生の意見を汲み取ることや、文章で意見をまとめ相手に伝える力を養うために適したアイテムだと思います。

## Student Voice

総合経営学部マネジメント学科4年生 野口 遼太さん

●映像資料や先生の体験談などをふんだんに盛り込んだ楽しく飽きのこない授業です。また、授業中に自分の意見を述べたり自由に質問をする機会もあります。私は積極的な方ではありませんでしたが、自分自身で物事を前向きに考える事が出来るようになったのも、田中先生の授業のお陰だったと思います。



2014年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	フレッシュマンゼミナール1	○	2	熊本
	スポーツ学入門	×	2	熊本
	公衆衛生学	×	2	熊本

2014年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	フレッシュマンゼミナール2	○	2	熊本
	生涯スポーツ概論II	×	2	熊本
	リーダーシップ論	×	2	熊本

## ●現実社会につながる課題を意識

失敗と反省を重ねながら、分かりやすい教材づくりを試行錯誤しています。それに加え、授業の目的や位置づけをはっきりと意識できるように心がけています。



私は、通常の気象の授業と、航空操縦学専攻の航空気象の授業を担当しています。航空操縦学専攻の学生の場合、国家試験というハードルが目前に迫っているため、授業の内容が試験対策になりがちです。もちろん試験に合格することが前提ですが、それに留まらないよう心がけています。時として、



気象の変化を読み誤れば航空事故につながるかもしれません。いま学んでいる知識が、将来の安全につながると感じられると、学生の姿勢や関心、理解度が向上すると考えています。

### ● 分かり易い! 授業のテクニック

●「見える」ということを意識しています。授業全体の中で、講義の位置づけが見える、取り上げた気象現象の特徴が見える、気象現象(台風、前線、強風など)の姿が立体的に見える。そのような授業を心がけています。

### ● 関心が持てる! 授業のテクニック

●「新鮮」なデータや情報を使うようにしています。先週は大雪が降った、昨日は暑かった。まだ記憶に残っている印象深い気象現象について、その時の天気図やデータを見ながら、なぜそうなったかを考えます。

### ● 聞き取り易い! 授業のテクニック

●声の大きさやスピードについて、「変化」させることを意識しています。集中してほしいところでは、わざと声を小さくしてゆっくり話すこともあります。



工学部航空宇宙学科  
航空操縦学専攻  
新井直樹先生  
Arai, Naoki

### ● 分かり易い! 授業のテクニック

●「見える」ということを意識しています。授業全体の中で、講義の位置づけが見える、取り上げた気象現象の特徴が見える、気象現象(台風、前線、強風など)の姿が立体的に見える。そのような授業を心がけています。

### ● 関心が持てる! 授業のテクニック

●「新鮮」なデータや情報を使うようにしています。先週は大雪が降った、昨日は暑かった。まだ記憶に残っている印象深い気象現象について、その時の天気図やデータを見ながら、なぜそうなったかを考えます。

### ● 聞き取り易い! 授業のテクニック

●声の大きさやスピードについて、「変化」させることを意識しています。集中してほしいところでは、わざと声を小さくしてゆっくり話すこともあります。

## Student Voice

工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻3年生  
石田 由佳さん(写真上) & 大関 翔輝さん

●気象図の授業では、その日の天気図を立体的に可視化するツールを使って頭の中でイメージしやすく説明してもらえるので、分かりやすく、深く理解できました。また、実際の飛行に使う気象データの解説や、国内外の航空業界の比較など、飛行訓練を視野に入れた実践的な授業で、大変役に立つ知識を身につけることができました。



### 授業を良くするために活用していることは?

#### ミニッツペーパーの裏面

授業で分からなかったところ、質問、感想などを自由に書いてもらいます。イラストを描いて授業の内容をまとめてくれる学生もいて、それを見ると嬉しくなります。

2014年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	宇宙科学B(地球と惑星の気象)	×	2	湘南
	大気圏科学	×	2	湘南
	航法システム	×	2	湘南

2014年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	航空気象学1	○	5	湘南
	航空気象学2	○	2	湘南
	航空計器	○	1	湘南



健康科学部社会福祉学科  
阿部 正昭先生  
Abe, Masaaki

## ●居心地の良い場と何でも言い合える関係



2013年度  
学生からは「先生の授業はほんわかして、楽しく、大変居心地が良い授業です」と言われます。確かに、教室が安心できる雰囲気、何でも言える場にしたいと思っています。私が担当する授業は、講義科目の他に演習科目もありますが、非常勤の先生と一緒に授業を行っているので、役割分担と連携を大切にしています。教員同士が意見の違いがあっても何でも言い合い、必ず一致して、助け合うようにしています。

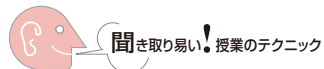
一言でいうと、教室が教員同士も学生も安心してそこに居ることができる場であり、授業中は何でも言い合える時間になりたいのです。



●テーマを示し、ワークシートに記入することで、関心を引き出します。グループワークで学びや気づきを導き出した上で、先行研究から視点や議論を紹介し、授業プリントはダウンロードできるようにしています。



●社会福祉の授業ですので、かつて自分自身が現場にいた時に、知りたかった情報や知識、習得したかった技術を重視しています。説明し、実際に示し、体験させ、振り返り、考察・検討するという基本を大切にしています。



●私はたくさんのことを伝えようとする傾向があるので、優先順位を決め、学生の状況を確認しながら話すようにしています。ミニツツペーパーで理解を確かめ、次回の授業で不足は補い、勘違いは修正します。

### 授業を良くするために活用していることは？ ミニツツペーパー

毎回提出してもらい、評価しています。良い内容は次の授業で全員に配布します。成績評価は毎回のミニツツペーパーの合計点と期末試験のうち、点数の高かった方を評価しています。

## Student Voice

健康科学部社会福祉学科3年次生 大隅 薫さん

●先生の授業ではミニツツペーパーを通して、皆と語り合います。ミニツツペーパーを書くことで、自分の意見を表明できるだけでなく、クラスメイトの意見を知ることができ、知識を共有することができました。また、先生からのフィードバックにより、自分の意見に対しても、新たな気づきや発見ができるというのも魅力だと思います。



2014年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	介護コミュニケーション技術1	×	1	伊勢原
	介護概論	×	4	伊勢原
	生活支援技術1	×	1	伊勢原

2014年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	生活支援技術3	×	2	伊勢原
	介護概論	×	4	伊勢原
	介護過程5	×	1	伊勢原

## ●個性、経験を大切にする授業

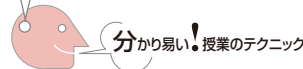
学生の個性をしっかりと理解し、一人ひとりにあった接し方や勉強の仕方を第一に心がけています。



英語という大きな壁をどうしても作ってしまう学生が多いので、一人ひとりの学生の目線で物事を話し、自分の英語を通しての経験談や、英語がなぜ世界で必要とされるかといったことを学生の皆と一緒に話して、考えています。「分からない」と言うのではなく、学生の持っている英語を使ってみる、引き出してみるということを授業内で心がけています。「失敗してもいい環境」「皆と一緒に補い学ぶ環境」を創っているのです。



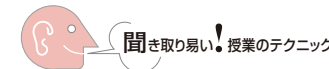
外国語教育センター第一類  
中川 浩先生  
Nakagawa, Hiroshi



●教科書の内容をただ教えるのではなく、学生の個性を把握し、彼らの人生経験を授業コンテンツに織り交ぜるようにしています。グループワークを通し、学生同士で補い、教えあう環境づくりを心がけています。



●多くのグループワークを通して、学生達がお互いの個性を理解することで、英語を話す際に感じていた相手への違和感が自然と減り、安心感や、達成感、関心を持つことができると思います。



●受講している学生の意見を真剣に聞き、受け答えています。また、学生が興味のある内容やKey wordsを取り入れ、より聞き取り易いように工夫をしています。

## Student Voice

健康科学部社会福祉学科2年次生 森田 桃果さん

●中川先生の授業は、私たちのやる気を引き出してくれます。例えば、英会話の授業で、「英語を使って、将来やりたいこと」というトピックを取り上げた時がありました。自分の夢をクラスメイトに語ることで、英語力がつくだけでなく、英語を学ぶ意義を再認識することができ、勉強に対するモチベーションが上がりました。



### 授業を良くするために活用していることは？ 授業参観・意見交換

FD研究会等を通して多くの先生方とのコミュニケーション、意見交換を行っています。また、SIOP Methodを使ったバラエティーオリティーのあるレクシンプランへの改良、実践、見直しを行っています。

2014年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	英語リスニング&スピーキング1	○	2	湘南
	基礎英文法演習	×	2	湘南
	TOEIC(R)初級	×	1	湘南

2014年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	英語リスニング&スピーキング1	○	2	湘南
	英語リーディング&ライティング2	○	2	湘南
	映画で学ぶ英語	×	2	湘南



課程資格教育センター  
教育学研究室

鈴木 正行先生  
Suzuki, Masayuki

# 情熱をもって実践的指導力を育成



2013年度  
私は、中・高の教職資格取得を目指す学生に授業をしています。人を育てる職業に関わるということで、私の授業全体が模範となるよう努力しています。いずれの教科も教職に関する基礎的・基本的な知識の修得を目的としており、とかく講義形式で単純になりがちなため、次の点に気を付けて授業をしています。

- ①明るく、元気に、情熱をもって授業を進める。
- ②可能な限り参加型の授業を展開する。
- ③中学校教育現場や教育委員会での経験を生かし、場面指導などを取り入れ実践的指導力を育成する。
- ④最新の教育情報を提供し、教師としてどうその課題に立ち向かうかを考えさせ、発表させる。
- ⑤教職への意欲や適性について自己を客観的に見つめさせる機会をもつ。



## 分かり易い！授業のテクニック

●学生のレディネスを把握し、教育法規はもとより、難解な教育用語や生徒指導事案に関する定義などについては、それらを噛み砕いて説明します。また、毎時間ワークシートを用意し、重要ポイントを記入させています。

## 関心が持てる！授業のテクニック

●授業の合間に、学校現場で感じた喜びや嬉しさ、厳しさや辛さ、失敗談など、自らの教職経験を語っています。社会問題となっている教育課題や教員採用試験に関する話題を取り上げ、情報を提供しています。

## 聞き取り易い！授業のテクニック

●地声が大きいので、大教室ではマイクとどちらがよいか学生に聞きます。重要な部分は、板書をしながら特に力を入れて強調し、ゆっくり丁寧に語りかけています。私語は理由を聞いてきちんと注意をします。

## 授業を良くするために活用していることは？ 授業アンケート、学会出席

授業アンケートについては、「授業について改善して欲しい点」を反省材料にしています。  
学会出席については、そこで学んだことを授業で生かすようにしています。

## Student Voice

体育学部生涯スポーツ学科4年生 石塚 光さん

●鈴木先生はどの学生に対しても、丁寧にかつとても熱心に教えてくださいました。先生の授業を通し、教室の雰囲気作りや生徒をひきこむ教授法、教員としての振る舞いなど、教師を目指すにあたって大切なことを学びました。将来はこれらのことを生かし、鈴木先生を越える情熱を持って生徒と向きあっていきたいと思っています。



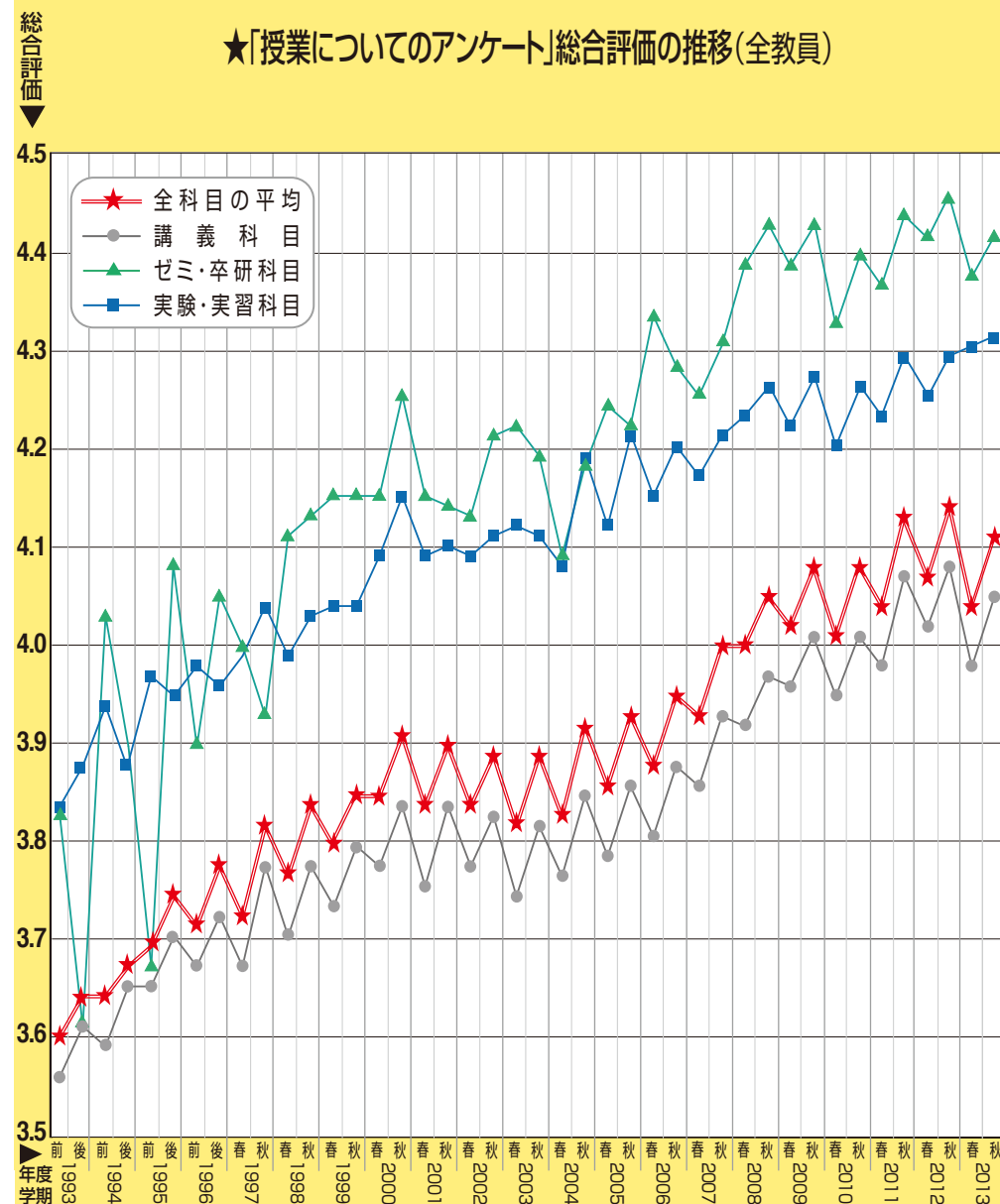
2013年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	教職論	※	2	湘南
	特別活動論	※	2	湘南

2013年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	教職論	※	2	湘南
	生徒指導論	※	2	湘南

# ◎だんだん増える『いい授業』

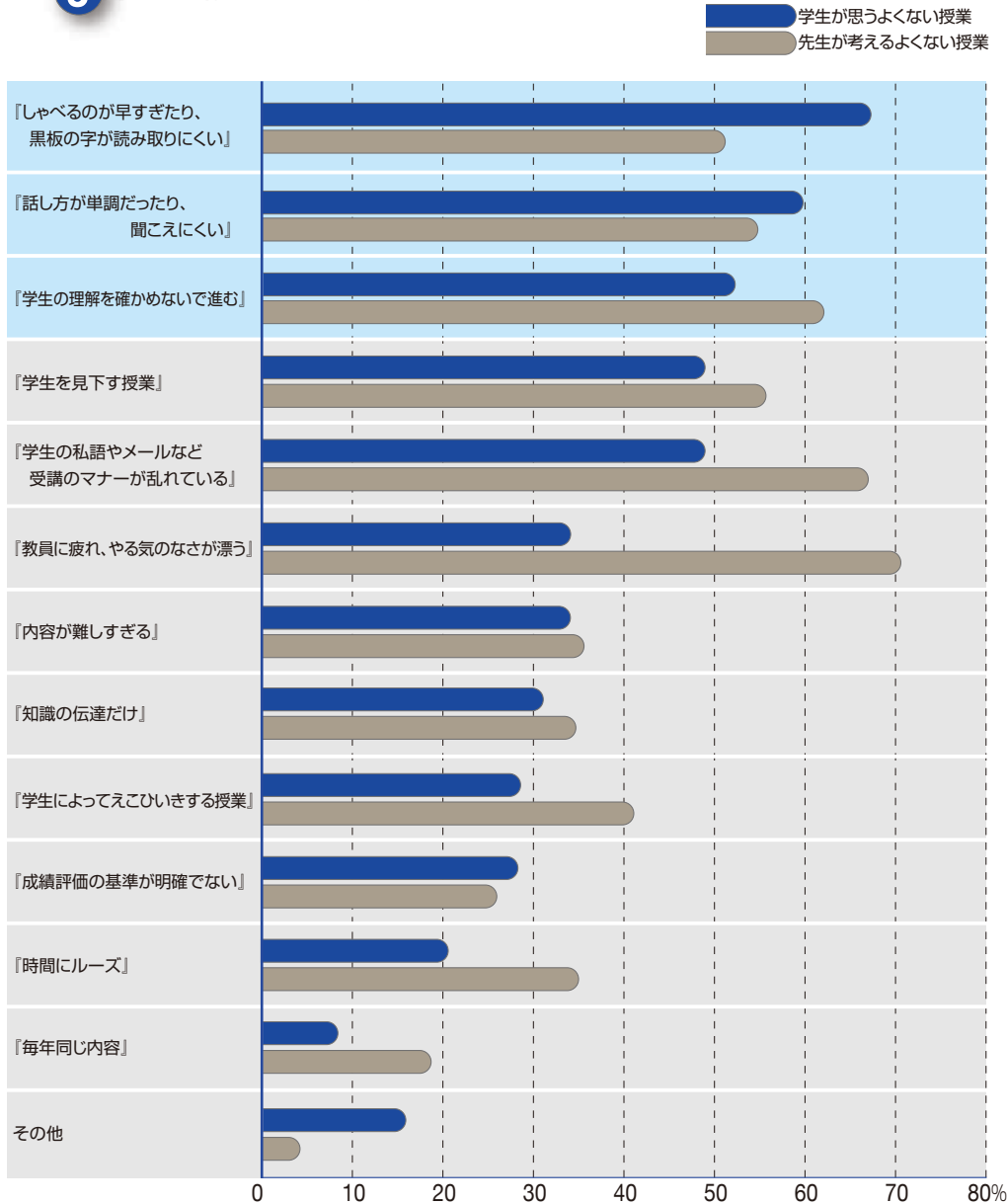
「授業についてのアンケート」★総合評価 | **4.11** (5点満点中)  
2013年度秋学期の平均

## ★「授業についてのアンケート」総合評価の推移(全教員)



# ◎『よくない授業』ワースト3 ― 学生はこんな授業で困っています

- 1 シャベるのが早すぎる・板書の字が読み取りにくい
- 2 話し方が単調・聞こえにくい
- 3 学生の理解を確かめないうで進む



# ◎『いい授業』はここが違う

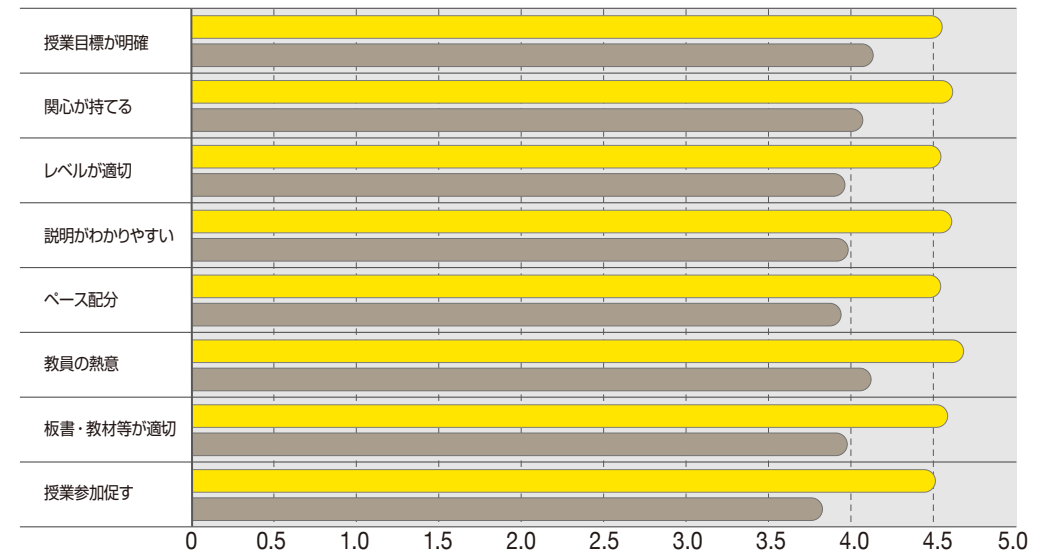


■Teaching Award受賞者と講義科目全体との比較(2013年度授業についてのアンケートより)

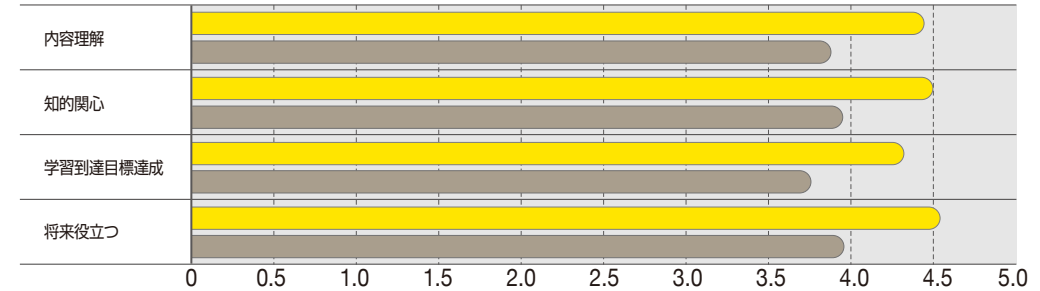
●授業内容と授業の進め方

■TA受賞者 (黄色)

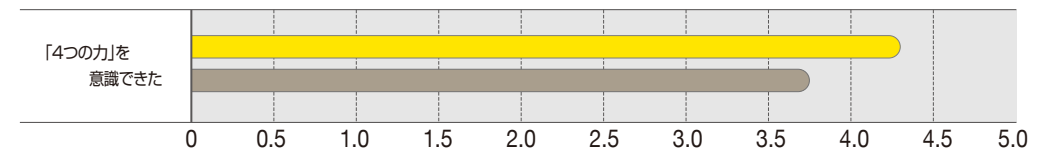
■講義全体 (茶色)



●授業を通じて得られたこと



●「4つの力」について



# 学生の選んだ『いい授業』

## Tokai Teaching Award 受賞者一覧(2002~2012年度)

\*退職者、名誉教授、掲載辞退者を除いています。\*2007年度以前は選考方法が異なり最優秀賞と優秀賞があります。



文学部アジア文明学科	葉 千栄 先生	2002年度  2003年度  2007年度最優秀賞  2012年度
文学部文芸創作学科	堀 啓子 先生	2007年
文学部英語文化コミュニケーション学科	斎藤 早苗 先生	2003年度
文学部英語文化コミュニケーション学科	川崎 修一 先生	2003年度  2006年度
文学部心理・社会学科	浅井 千秋 先生	2007年度
文学部心理・社会学科	有沢 孝治 先生	2006年度  2008年度
観光学部観光学科	菅井 克行 先生	2011年度
観光学部観光学科	立原 繁 先生	2010年度
政治経済学部経営学科	岩谷 昌樹 先生	2006年度  2009年度
経営学部経営学科	田中 靖久 先生	2009年度
法学部法律学科	田上 麻衣子 先生	2009年度
教養学部芸術学科音楽学課程	梶井 龍太郎 先生	2003年度  2004年度
教養学部国際学科	カーター シェリ- G 先生	2005年度
教養学部国際学科	小貫 大輔 先生	2007年度  2010年度
教養学部国際学科	高橋 宏明 先生	2004年度  2005年度
教養学部国際学科	高橋 祐三 先生	2002年度
国際文化学部地域創造学科	広川 龍太郎 先生	2007年
国際文化学部国際コミュニケーション学科	張 雷 先生	2007年度
国際文化学部国際コミュニケーション学科	ハミルトン マーク C 先生	2007年度
国際文化学部デザイン文化学科	中尾 紀行 先生	2007年度
国際文化学部デザイン文化学科	田川 正毅 先生	2007年
理学部数学科	古谷 康雄 先生	2006年度
理学部情報数学科	土屋 守正 先生	2007年度
理学部物理学科	遠藤 雅守 先生	2005年度
理学部物理学科	江川 浩 先生	2003年度  2004年度
理学部化学科	関根 嘉香 先生	2003年度  2004年度  2008年度
理学部基礎教育研究室	及川 義道 先生	2002年度
情報理工学部情報科学科	内田 理 先生	2005年度
情報理工学部コンピュータ応用工学科	浅川 毅 先生	2002年度  2007年度

情報通信学部情報メディア学科	濱本 和彦 先生	2002年度
情報通信学部経営システム工学科	西口 宏美 先生	2007年
情報通信学部経営システム工学科	森山 弘海 先生	2003年度  2004年度
工学部応用化学科	久慈 俊郎 先生	2007年度最優秀賞
工学部応用化学科	長瀬 裕 先生	2005年度
工学部電気電子工学科	大山 龍一郎 先生	2006年度
工学部機械工学科	神崎 昌郎 先生	2004年度
工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻	柴田 啓二 先生	2011年度
海洋学部水産学科生物生産学専攻	鈴木 伸洋 先生	2006年度
海洋学部水産学科食品科学専攻	齋藤 俊郎 先生	2005年度
海洋学部海洋生物学科	村山 司 先生	2004年度  2007年
生物学部生物学科	笠原 宏一 先生	2007年度
農学部応用植物科学科	松田 靖 先生	2006年度
農学部応用動物科学科	仁木 隆博 先生	2008年度
体育学部体育学科	今村 修 先生	2003年度最優秀賞  2005年度
体育学部体育学科	小澤 治夫 先生	2007年  2010年度
体育学部競技スポーツ学科	高妻 容一 先生	2002年度最優秀賞
体育学部武道学科	天野 聡 先生	2012年度
健康科学部看護学科	石井 美里 先生	2007年度
総合教育センター	吉田 厚子 先生	2002年度最優秀賞  2005年度  2009年度  2012年度
外国語教育センター第一類(高輪教養教育センター)	ヴィンストラ ロバート ジェイソン 先生	2009年度  2012年度
外国語教育センター第一類(清水教養教育センター)	栗原 ゆか 先生	2008年度
外国語教育センター第一類	シュロズブリー マーク リチャード 先生	2011年度
外国語教育センター第二類	安 小鉄 先生	2006年度
外国語教育センター第二類	佐藤 浩一 先生	2010年度
課程資格教育センター教育学研究室	朝倉 徹 先生	2004年度最優秀賞  2005年度  2011年度
課程資格教育センター教育学研究室	杉崎 雅子 先生	2007年
課程資格教育センター教育学研究室	平野 眞 先生	2010年度
課程資格教育センター博物館学研究室	篠原 聡 先生	2012年度

工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻  
■新井 直樹先生

教育支援センター所長  
★内田 晴久先生

教育支援課スタッフ  
★中嶋 清香氏

健康科学部社会福祉学科  
■阿部 正昭先生

課程資格教育センター  
教育学研究室  
■鈴木 正行先生

外国語教育センター第一類  
■中川 浩先生

## 人を育てる授業とは…

## …いま、学生に伝えたいこと

### ★積極的な授業への参加を促す工夫とは？

司会(中嶋)★ご担当されている授業や受講生の特徴、授業の内外で工夫していることなどをお聞かせください。

阿部先生●「居心地が良い授業」だと学生には言われます。資格取得を目指す学生は課題を抱え、緊張状態が続くことが多いので、安心して、何でも言える雰囲気作りを心がけています。

中川先生●私はグループワークやプレゼンを積極的に取り入れ、内気な学生でも壁をつくらないう、学生をしっかりみて、個性をみんなでシェアするようにしています。学生が持つ英語の知識を活かして、自分の考えを発信できるようガイドしながら、技能を身につけるLESSONプランを組み立てています。

田中先生●スポーツビジネスの世界での活躍を希望する受講生が多いので、明確な目標がある一方で、興味がないものへの意欲は低い傾向があります。彼らの興味・関心を惹きつける工夫をして学習意欲を刺激し、授業中は「絶対に寝させない!」という意気込みでやっています。

鈴木先生●教職に関する知識や指導法などを教える授業です。机上に名札を用意して発言した日付と回数を記入させるとか、ワークシートを使ってポイントを記入させたり、学生が板書する機会を設けるなど、授業が単調にならない工夫をしています。

新井先生●一般の学生と航空操縦学専攻の学生に気象を教えています。学生は初めて気象を学ぶので、専門用語はあまり使わず、わかりやすく説明します。パイロットを目指す学生は資格取得を意識しがちですが、そのためだけの学習ではなく、気象を学ぶ意義を理解してもらえよう、努力しています。

内田所長★資格取得を意識させることはキーワードですね。ただ、合格させるためだけでなく、「広い視野を持った人を育てる」という意識を持って授業を行うことも大切です。

東海大学では、「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の「4つの力」の育成を掲げています。また、2013年度からは、『To-Collaboプログラム(文科省/地(知)の拠点整備事業)』が始動し、地域理解や社会貢献などの活動を通して、社会の問題を解決できる人材の育成を目指しています。これらは本学の目標であり、社会から求められている大学の使命です。そこで今回は、「人を育てる授業とは ～いま、学生に伝えたいこと～」と題して、2013年度TeachingAwardを受賞された先生方と座談会を行いました。詳細はHPをご覧ください。(2014年4月1日 授賞式後、教育支援センター主催)

### ★授業を通して、学生が得られることは？

司会者★授業を通して、どんな力をつけてほしいですか？

鈴木先生●授業では、「自ら考える力」「集い力」に重点をおいています。授業を通して教育現場の課題や改善策を考える力を、また、グループワークなどを取り入れ人間関係形成能力やコミュニケーション力を育み、最終的に「教職を目指すかどうか」を自己決定する力を身につけてほしいと思います。

内田所長★グループワークの中で、ぼつんと残ってしまう学生に対しては、どのような対応をとられていますか？

鈴木先生●学生の方から一人になりそうな学生に声をかけたり、司会者が消極的な学生に質問を向けることも見かけます。私は、このような思いやりの気持ちを評価してあげています。

田中先生●私は、レポートや口頭での発表を通じて、「自分の考えをレポートや口頭でまとめる力」を身につけてほしいと思います。自分の考えを表現することができないと、何も考えていないと捉えられてしまいます。授業を通じて、自分の意思を伝えるセオリーも教えています。

内田所長★アスリートは活躍するようになるとインタビューを

受ける機会も多くなり、「自分の意思をきちんと伝えること」は大切なことだと思います。阿部先生、福祉の分野でもコミュニケーション能力が求められるのでは？

阿部先生●福祉関連の職業も、人との関わりが多いので、コミュニケーション能力は大切ですが、学生には自己肯定感を持ってほしいと思っています。そのため授業では、ワークシートに自分の考えを記入させた後、グループで意見を出し合い、ワークシートを完成させます。こうした経験から、「答え」は自ずと導き出されるという感覚を持てるようになると思います。

内田所長★学生には、自信を持って自分の本当の考えで行動できるように育ててほしいですね。

新井先生●私は、「成し遂げ力」を身につけてほしいと思います。パイロットを目指す学生は授業や課題などの負荷が大変大きく、心が折れそうな時があります。そのような時は私自身の、失敗し苦勞を乗り越えた南極越冬隊での経験を気象に関連づけて講義することで、学生を励ましています。

### ★学生の皆さんに一言メッセージを

司会者★学生たちに、一言メッセージをお願いします。



経営学部経営学科 ■田中 靖久先生  
(熊本校舎よりTV会議で参加)

田中先生●夢や目標を持ってほしいです。今は夢や目標を持ってないという学生でも、どのような人になりたいのかというイメージを持つことで、何をすべきか自ずと見えなくてはなりません。

阿部先生●私の授業は、学生の将来の職業選択に関わる授業です。誰もが「自分らしい」職業に就きたいと思いますが、「自分らしさ」というものは探求して発見できるものではないと思います。むしろ今、ここに居る人との関わりを大切に、その時々呼びかけに応えることで、「自分らしさ」に出会えるのだと思います。

中川先生●「失敗してもいい、とりあえずやってみよう!」という気持ちを大切にもらいたい。失敗をしても、必ず新しいものが生まれてきます。自分の個性を大事にしながらまわりを尊重し、素直な人間に成長してもらいたいと願っています。

鈴木先生●将来、教壇に立つ人間は、教育に対する情熱や専門的な力量、総合的な人間力が問われます。ですから、真剣に授業を受けてほしいと思います。「自分だったらどのような授業を行うか」ということを常に考えながら授業を受けることで、高い参加意欲を持つことができると思います。

新井先生●「いい授業」に欠かせないのは、「いい学生」です。授業に興味を持ち、マナーを持った「いい学生」として授業に参加してほしいですね。私も授業に興味を持ってもらえるよう材料を準備し、熱意を持って授業に臨みたいと思っています。

内田所長★今回のお話は多くの先生方の参考なりそうです。どの先生方も、「学生の学ぶ意欲」を引き立たせるような授業を工夫をされています。これからも、よりよい授業づくりのために、情報を発信し続けてください。